

## メリケンキアシシギ *Heteroscelus incanus* (Gmelin)

### 【選定理由】

外洋性のシギで国内では極めて数の少ない種であり、県内への飛来数は1～数羽である。春秋の渡りの季節に太平洋（遠州灘）に面した海岸の岩礁に飛来するが、県内では5月の記録が大半を占める。県内に毎年飛来する環境とその地域は限られており、他の場所にある岩礁に飛来することは極めて希であり、三河湾の干潟やその周辺などでの記録も極めて希である。限られた地域の岩礁から生息可能な環境が無くなれば、たちまち県内から姿を消すことになる。

### 【形態】

体長約 28cm。雌雄同色。夏羽は頭頂から上面は灰褐色で下面全体は白黒の縞模様。冬羽では下面の模様が淡くなる。飛翔中の翼は上下面とも灰黒褐色。嘴は黒色、基部はやや淡色で、まっすぐ。脚は汚黄色。第一回冬羽は成鳥冬羽に似るが、雨覆に白斑がある。キアシシギによく似ているが少し大きく、体の色は全体にやや濃く見える。



愛知県渥美半島, 1988年5月20日, 山本 晃 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

ほぼ毎年飛来する場所は渥美半島の太平洋に面した特定地域の岩礁地帯であるが、三河湾の干潟などでも記録がある。

#### 【国内の分布】

本州、四国、小笠原諸島、伊豆諸島などで希な旅鳥として記録されるが、一部越冬するものもいる。

#### 【世界の分布】

アラスカ南西部とシベリア東端で繁殖し、南カリフォルニアから中米の太平洋岸、ハワイ諸島から中央・南部太平洋諸島、ニューギニア東部、オーストラリア東岸、ニュージーランドなどで越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

渥美半島の太平洋に面した海岸の岩礁に定期的に飛来し、単独あるいは数羽でみられる。岩礁の上を歩きながら岩の隙間などにいる生物を捕食しているが、図鑑等では「節足動物や貝、ゴカイなどを食べる」と記されている。ピッピッピッと連続して鳴く。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

三河湾の干潟や河口の周辺でも数回の観察記録はあるが、近年の記録は全て渥美半島の太平洋岸に面した特定地域の岩礁周辺に限られている。数羽で見られることもあるが、近年はほとんどが1羽である。三河湾での記録が無くなった要因は不明であるが、近年伊勢・三河湾全域でもシギ・チドリの生息数が激減している。

### 【保全上の留意点】

特別な保全対策は不要と思われるが、何気ない岩礁や消波ブロックにもその環境に依存して生息する生物が存在することを、訪れた人に知ってもらうことは必要と思われる。

### 【特記事項】

近年、海岸の浸食防止のため、本種の生息地である岩礁周辺の沖に消波ブロックが設置されたが、この消波ブロックも生息場所として利用しているようで、最近では岩礁でなくこの人工物の上で生息を確認することも多くなった。

### 【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.133. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)